

【一問一答】 鍵山相談役への質問

【品格を高めるには】

自分の品格を高めようとしたら、自分の得にならないことをする。自分の得にならないことをやったときに自分の品格は上がっていきませんか。自分の得になることばかりを求めている人は品格が低いです。世の中を見回しても相当の学歴、知識、肩書き、技能を身につけていて、にもかかわらず、その技能を全部自分の得になることにしか使わない人はいいと思いますよ。そういう人はどんな大学を出ていようが何をしても、人間の品格としては低いです。一方社会の片隅にあって誰の目にも触れない、日の当たらないところにいながらいつも自分の得にならないことを引き受けて、コソコソとやっている。そういう人は立派な人格を備えていると思います。実に簡単なことですね。これができるかできないかが分かれ道ですね。

【日本を立て直すための心構え】

「日本は将来どうなるでしょうか」「世界はどうなるでしょうか」とよくご質問を受けることがあります。未来というのは想像するものじゃなくて、「今日どうするか」ということなんです。今日一人ひとりがどう生きていくかによって未来は変わってくるので、今日のことを疎かにして未来のことを論じても始まらないんです。自分の望む未来を作り上げるために、今日、明日、どういう生き方をしていくか、それによって未来は良くも悪くもなると思います。

便教会新聞

第175号

令和4年11月

便教会は、教師の教師のためのトイレ掃除に学ぶ会です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めることを目的としています。

便教会新聞発行責任者 高野修滋
〒四四五〇八〇二
愛知県西尾市米津町天竺桂二七七
T/F 〇五六三―五六―四三二七
携帯 090 - 4215 - 1727

ですから私は今日一日ぐらいという考えでいたら未来は悪くなりそうですし、いや今日一日、一日を未来のために良くしていこうというのであれば、間違えなく未来は良くなっていきます。よく私どもの会社にいるんな方が研修に連れて、「目から鱗が落ちました」と言っている方が多くいらつしやいます。が、「心の鱗」も落ちていた。今日一日、明日一日、未来を良くするための努力をしていただきたい。必ず日本は良くなっていきます。

【三つの幸せ】

これは私が教えていただきました。「何かもう幸せ」「これは有り難いです。「いっつも何かをしてもう幸せ」これもいいですけど、これは幼児の幸せです。「できる幸せ」今までできなかったことができるようになる幸せ。ここで止まってはいけない。「くしてあげる幸せ」人に何かをしてあげる幸せ。ここに喜びを感じる人生でなければいけない。これは年齢と共にこうなるのかという、そうはなりません。残念ながら私と同じような年の人でも、あるいは私より先輩の年の人であっても、「もう幸せ」しか知らないで生涯を終わっていく人がいっぱいいます。自分ができていることで幸せを感じている人もいっぱいいます。ここまですごく人は割と少ない。しかし、子どもでもこの領域に入っている人もいっぱいいます。できれば私たちは①「してもらう幸せ」から②「できる幸せ」そして③「してあげる幸せ」と早く移行していきたい。

【編集後記】まだ終活を考える歳じゃないかもと思う反面、「次に伝える」、「バトンタッチすることや」「高齢者になってどういう生き方をするのか」を度々考えるようになりまし。掃除に学ぶ会も私が初参加した25年前は全国各地で大会が盛んに開催され、勢いがありました。四半世紀が過ぎ、会を牽引していた方々は他界されたり、高齢となり次に繋がる人がなかなか出ないのが現状で、このままが常態化すればやがて糸が切れるのではと心配します。便教会活動も同じ不安を抱えています。近年、東海学園大学の先生とご縁で教育現場を目指す学生さんに掃除道を発信するチャンスをおいただき、活動推進の励みとなりました。ある方が「日本人の生き方は志のリレーです」と仰るのを聞いて頷くと同時に何をどうやるのかと考えました。目に見えるバトンがあるわけではなく、志とは公のためになり、遠く高いところにあり容易に手にすることができないものですが、それに近づく歩みが尊いと思います。掃除に学ぶ活動は正にその歩みそのものであり、少しずつ社会から心の荒みがなくなり、他者を思いやる社会に近づいていきます。後継者に悩む組織はその想い、活動量が足りないからで、後から来るものたちを育てるために自ら下に降りて働きかけていく姿勢が大事だと思えます。大人としての生き方は我を通して人に迷惑をかけるのではなく、自ら下に降りて次に繋がる人を受け入れて育てていくことです。手遅れにならないことを願うばかりです。 高野修滋 拜

『リーダー研修会に参加して』

(愛媛県) 新居浜市立新居浜小学校

教諭 眞鍋 裕介

私と妻が逆転した。愛媛に戻った翌年の2015年、妻は0歳の息子を連れてこの便教会に参加すると言った。その時の私は、「いや、こんな小さな子ども連れて行くのは迷惑やけんやめとけ。」と大反対したのを覚えている。しかし、私の妻は一度決めたら折れない人(この便教会界限では有名なのであって名前を出さないけど)なので、息子と2人で電車に乗って行ってしまった。翌年には私も巻き込まれ、渋々の初参加となる。それから6年。金曜日、夜行バスに乗って、海を隔てた島国から便教会のリーダー研修会参加のために意気揚々と愛知県に一人で向かう私があった。バスの中で2015年を思い出しながら、「人は変わるもの」だと感動と恥ずかしさで可笑しくなった。

コロナ禍の2年半、愛媛便教会も2020年2月の総会を最後に参集しての掃除会が出来なくなりました。1年近く一人でやる日が続いた。昨年度、新しい学校に転任して数か月したときに、教頭先生と若い先生が

「一緒にやるよ」と言ってくれて、それ以来、基本的に3人でやる事ができている。二人には本当に感謝している。感染状況が落ち着くと他にも数名仲間を呼んでできるようになった。学校でやることを許してくれる校長先生も有難い。しかし、一人での掃除会、いつも決まった仲間との掃除会それが続く、甘え? 惰性? 怠慢? のような緩いモヤモヤとした感覚が自分の中にでていることに気付いてしまった。新しく参加している2人にも、「まあ、いいですよ」と言ってしまう自分。道具の管理や準備が出来ていなくて、「あれ?」という日もあった。便教会ってそうだった? と迷っているまにそのとき、タイミングよく便教会のリーダー研の話があった。リーダー研翌日は普通に仕事。海外なので早く帰れても夜9時。迷いに迷ったが、これはきつと必然だろうと参加を決意した。

参加してみてもうだったかは、言わずもがな。3年ぶりの再会だけでも、変わらない皆さんが嬉しくて心が温かくなった。前夜祭、高野先生や利会長、白鳥さんに自分のモヤモヤしていることをぶつけてみると、しっかりと受け止めて、答えてくれた。今の日本、教育に憂いを持つこと。そしてマインスの芽を摘み、プラスのスパイラルを

生む。草の根作戦で変えていくその一歩が掃除だということも改めて感じる事が出来た。前夜祭の時点ですでに満足感は100%を超えていた。

リーダー研修会当日、豊田市から初めて便教会に参加された小川さん(奥さん)と席が隣になった。愛媛から来たことにびっくりされていた(当然)が、「なんでそこまでして参加されるんですか?」と問われた時、即答できずに少し笑ってはぐらかしてしました。

実習では、利会長の班で勉強させていただいた。道具の向きを揃える、道具の配置、進め方などユーモアを交えながら、教えていただく中で、自分なりに心に落ちたことがあった。それは「絶対“他”であることだ。自分以外の相手や物への配慮、気配りをとにかく形や動きにする。それをどの場面でも行う練習、修練がこの掃除にあると感じた。雑巾の絞り方、バケツの拭き方一つ。幸一郎さんのお話にあった、配達員をシャチャハタを持ってエレベーターの前で待たしたり、店が混み始めると早く食べなさいと孫に言ったりする相談役の姿とも繋がった。教育も自己満足ではいけない。やはり今の自分ではなく、子どもや未来の日本、世界への種まき、つまり「他」でないとい

けないのだと感じた。思いやりや、心づかいや、優しいさは訓練によって身に付く。「他」に対する行動を徹底して磨くことで「自」が磨かれていくのだとも感じた。きつところといった気付きこそが小川さんの問いに対する答えなのだと思う。

海を渡り、愛媛に戻ってからリーダー研後一発目の便教会。教頭先生に「今日の磨く音、なんかいつもより優しいですねー！」と言うと、「わかる？」と返ってきて2人で笑った。その日の教頭先生のトイレはいつも以上にキレイになっていて、振り返りの時に「力じゃないことに気付いたよ」と言ってくれたのがとても嬉しかった。そしてこの11月、不思議なご縁で繋がった小川さん（旦那さん）から紹介していただいた演劇を観に行く。これもまた今の自分には必然なのだろう。何が学べるか今から楽しみだ。

『好奇心』

非常勤講師 菱川 洋子

便教会との出逢いから早いもので七年近くたとうとしています。私は、どちらかというと、好奇心旺盛で、一つのことに深くというより、広く浅くといった感じの選択をしてきたことが多かったと思います。便教会との出逢いも、職場が変わり、隣が木原先生の席だったこともあり、私の好奇心も手伝い、思い切って参加したことから始まりました。今は、少しは、ちよつとしたことに気づくこと

ができる様になった気がします。

この便教会から、高野先生をはじめ、素敵な方々との出逢いがありました。そしてそこからまた、新しい人との繋がりがあり、いろいろな方面へと広がり、私の生活の一部となっているものもあります。

九月のリーダー研修では、講師の方が、掃除の仕方をはじめ、雑巾のタオルの絞り方などの道具の使い方や、片づけ方まで細かく、その理由もしっかりと教えていただきました。また、下見をすることも大切であること、そして何より「楽しんで、やってよかった」と帰ること」が大事だということも言われました。なるほど、今まで便教会に参加した時、やって良かったと毎回そう思ってた帰ることができていました。そのように思えたのも、会場や道具の準備をしていただいたお陰なのだ改めて感謝の気持ちがいってきました。

リーダー研修は、豊田市のオイスカ研修所で行われたのですが、研修以外で、思い出深いことが二つありました。一つ目は、お昼ご飯のカレーライスをいただいた時に食堂にみえたマリアさん（以前、総会で一緒に掃除をしたことがあり、ご家族で参加されたこともある方です）です。オイスカのみなさんはとても優しく、親しみやすい方ばかりなのですが、なかでも所長の奥さん、マリアさんは、底抜けの明るさと笑顔がとても印象的で、忘れられない人です。また逢えて嬉しい、また逢いたいと思う素敵な方です。もう一つは、オイスカまでは、四人で車で行っていたので、帰りにダメもとで、思い切って中京大学にあ

余談になりますが、特に上に立つ人、また（権）力を持っている人ほど下に降りる心の柔軟性で将来を考えて欲しいものです。小さなプライドにこだわりが強く、幼児性が抜けない大人、老人に接するところがっかりします。

表題「なぜ、便教会なのか」に戻りますが、掃除に学ぶ会の活動のみで学校に掃除の種が播かれ、発芽し、掃除に学ぶ活動が定着化する期待値はかなり低いと思います。学校に「掃除の灯」を点すには内部から、一人からの実践、発信に頼るのが得策だと思います。掃除に学び、その気づきを教育活動に活かすことで教師の資質が向上していきます。一人の教師には大勢の子ども（生徒）が従っています。子どもたちは先生の一挙手一投足を見えています。教師の主体変容は子どもの変容です。学校が変わります。便教会活動は教師が主体となっていますが、その活動を支えてくれているのが掃除に学ぶ会です。掃除に学ぶ会と便教会は車の両輪です。

平成13年2001年、第一回便教会総会を開催しました。鍵山相談役のご尽力で全国から大勢の有志の方にお集まりいただきました。毎年の便教会総会には「教師の教師による」という主体性が少し欠けているところもあります。近年、東海学園大学の教護教諭専攻の学生さんが参加してくれるようになり、総会全体の活力が増し、若い人の意見が良い刺激となり、掃除の原点に立ち戻り、新たな活力をいただいています。ここに東海学園大学学生さんの体験談の一部を紹介

るスケートリンク（浅田真央とかが練習場に行っていると思われるところ）に行ってみようということになり、日曜日だったので開館していないかもしれないと思いつつ、恐る恐る行ってみると、開館しており、入ることができ、いとも簡単に見学できたのでした（見学者の中に一人でも中京大の現役生か卒業生がいれば見学できるとのこと、私がそうだったのだ）。しかも、そこでは、後から分かったことですが、松生理乃選手（その日の夕方の大会で優勝していました）が練習していたのです。思い切って行ったことで、特別な体験ができました。

年齢と共に衰えるであろう体力と好奇心ではあると思いますが、体力の続く限り便教会での経験を積みつつ、好奇心とうまく付き合いながら、生きていきたいと思う今日この頃です。

『なぜ、便教会を…』

便教会世話人 高野 修滋

便教会を立ち上げた頃、「掃除に学ぶ会の活動があるのに、どうして便教会（教師の教師による教師のためのトイレ掃除に学ぶ会）が必要なんだ」「掃除に学ぶ会で十分じゃないか」という意見が多くありました。

便教会設立から遡ること4年前、平成9年9月、初めて掃除に学ぶ会に参加し、大きな衝撃を受けました。突き抜けたようなすつきり感、充実感、達成感でした。「感

します。

今まで自分のやっていた掃除は何だったのだろう。目に見える汚れだけ掃除して、どうして目に見えない汚れは掃除しなかったのだろう。どうして今まで気づかなかつたのだろう…。『五感をフル活用すると、第六感が反応する』私は掃除を通して学びました。掃除以外にも同じことが言えるのではないかと思います。現在私は、養護教諭を目指している学生ですが、実習やボランティアなどを通して子供たちとかかわることがあります。言葉や症状で訴えてこない子供がいるとき、その子供の抱えている問題や心の中の傷に気付かなければならないと思うのですが、なかなか難しいことだと感じています。現場に出るのはまだこれからですが、今回掃除から学んだ、『五感をフル活用すると、第六感が反応する』ことは、これからに生かしていきたいと思えます。（この学生さんは教員採用試験に合格されました）

便教会活動が目指すところは、教育現場で「掃除の意義、重要性が再認識され、その実践が広まり、深まっていく」ことです。これから教育現場を目指す学生、若い教師、中堅教師、定年間近の教師、教師が変われば子どもは変わる、学校が変わる。学校には校風がありますが、その風はどんな学校であるかを写し出す無形の鏡です。

教育をより良くするにはサポーターが必要で、便教会活動へのご参加、ご指導は大きな力、励みとなります。「トイレ掃除は気づきの宝庫であり、気づきの訓練です」

動」の一言です。掃除に学ぶ回数が増えるとともに、生徒と共感したい、教育現場に「掃除に学ぶ」活動を広めたいという思いが強くなっていきました。誘ったからといって、子ども（生徒）が進んでトイレ掃除をすることはまれです。掃除の感動、その意義を繰り返し伝えることで仲間が一人、二人と増えていきました。

平成12年、新しく赴任した高校で、「生徒と一緒にトイレ掃除をする」ことを職員会議で提案したところ、非難、反対意見ばかりで、反対されるとは全く思ってもいなかったのです、すつごく落ち込みました。非難のような反対意見は止むことがありませんでしたが、校長先生の「やらせてやれ」の一言で終わりました。学校、教育現場に「掃除に学ぶ活動」を広めることの困難さを痛感し、「もう止めようかなあ」と弱音も出しましたが、掃除で受けた恩、鍵山相談役からの恩、心願、想いを考えると、止めてはいけない、少しづつがんばろうと力が湧いてきました。

「掃除に学ぶ活動」で学んだこと、気づいたことを受け持ちのクラスで徹底しました。「時を守り、場を清め、礼を正す」簡単なことに思われがちですが、徹底することとは難しく、それを継続して習慣化することとは更に根気の要ることです。同調してくる教師仲間も増え、担当する学年全体が整いました。こうなると順調、順風に思われますが、何かをやろうとすると「必ず」反対する人がいますが、先を見通した建設的な意見交換にならなければなりません。